

会 議 録				
平成30年度第2回 認知症施策事業推進委 員会	日 時	平成31年1月31日(木) 午後7時～	場 所	小金井市役所 第二庁舎 801会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	竹田委員(一般社団法人小金井市医師会・竹田内科クリニック) 田中委員(社団法人小金井市薬剤師会・グリーンベル薬局) 菊池委員(社会福祉法人聖ヨハネ会・桜町病院認知症疾患医療センター) 今井委員(小金井市商工会・株式会社スタート) 川村委員(小金井市立本町高齢者在宅サービスセンター) 林委員(わそら街なかナースステーション) 三井委員(介護相談室ぬくいケアプラン) 閑野委員(特別非営利活動法人ケアサポート湧)		
	事務局	中川氏小金井きた地域包括支援センター 成田氏小金井きた地域包括支援センター 杉森氏小金井ひがし地域包括支援センター 黒木氏小金井みなみ地域包括支援センター 高橋氏小金井にし地域包括支援センター 鈴木高齢福祉担当課長 濱松包括支援係長 福多包括支援係主任 竹宮包括支援係		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 高齢福祉担当課長 挨拶 2 議題 (1) 平成30年度認知症施策報告 (2) 平成30年度認知症 安心ガイドブック改訂版の検討 (3) 平成31年度の委員会について 3 意見交換				
1 高齢福祉担当課長 挨拶 2 議題 (1) 平成30年度認知症施策報告				

(濱松包括支援係長)

第7期介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画では、認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）の7つの柱に立ち、認知症の方やその家族の視点を重視し、認知症への理解を深め、認知症高齢者の方等に優しい地域づくりを総合的に支援していくこととしており、認知症施策を認知症地域支援推進員と協力して進めている。

(福多包括支援係主任)

認知症施策事業推進委員会：年2回実施。認知症安心ガイドブックの普及啓発および平成32年度の改訂、その他認知症施策について皆様よりご意見をいただきたい。

認知症連携会議：小金井市医師会及び製薬会社との協力で年3回実施。医療と介護の連携した認知症の事例検討。これまで地域包括支援センターの事例を検討することが多かったが、今年度はケアマネジャーからも事例提出していただいている。

認知症初期集中支援事業：各圏域の認知症地域支援推進員及び訪問担当の医師でチームを組み、主に認知症が疑われるが未受診でサービスにつながりにくい方を訪問する。この事業の事例は認知症連携会議で事例検討している。

やすらぎ支援事業：ボランティアの支援員が週1回訪問し認知症の方の話し相手等の支援。現在8名の登録があり（事情により3名休み）ボランティアの登録は10名。引き続きボランティアや登録者についても募集していきたい。

家族介護継続支援事業：認知症の家族の会。新規参加者の募集をもう少し広げたい。年3～4回、担当者の連絡会を実施しており、各事業所での取り組みの情報交換の他、今年度はチラシ配布、ケアマネさんの部会の中での周知活動などに取り組む。

認知症講演会：例年9月に実施していたが今年度はお元気サミットin小金井の中で実施予定。今年度は認知症に対しての誤解を解く、という内容。

(高橋氏小金井にし地域包括支援センター) (資料4参照)

認知症の相談支援体制の充実、また認知症の周知、関係機関とのネットワークづくりを図ることを中心として活動した。先程の事務局の報告と重なる内容は割愛する。

年間通した取り組み：市の担当者と推進員の連絡会、推進員のワーキングを毎月実施。

・相談支援体制の充実

小金井市認知症連携会議と北多摩南部地域認知症連携会議の出席。

認知症初期集中支援事業：今年度は3事例の実施。

認知症相談会：5月に市報で募集したが希望者なし。体制について検討していきたい。

・認知症の周知

認知症サポーター養成講座：年3回各包括で定期開催。また要請に応じて随時開催。本年度は商業店職員向けにも開催。キッズ認知症サポーター養成講座として南中学校、第一中学校、第二小学校で開催。当講座の受講者向けにフォローアップ講座を開催、参加者は28名。認知症の関連事業所より多数の方の協力をいただく。

認知症ケアパスの普及：各包括で多方面で説明。市民向けのアンケートを実施。

- ・ネットワークづくり

「小金井市認知症を考える会」：今年度初めて開催。市内の認知症関連事業所であるグループホームや老健、小規模・多機能型介護の職員の方々、また病院関係者や認知症認定看護師の方々、またNPOや市民の方にご参加いただき意見交換をする。

ケアマネジャーとの連携づくり：ケアマネジャーグループ研修会の中で推進員の活動と社会資源について紹介。

- ・その他多数研修への参加

来年度はこれまでの活動をさらに発展していく、ネットワークづくりや認知症の方々の早期支援体制をもう少し充実させていきたい。

## (2) 平成30年度認知症 安心ガイドブック改訂版の検討

(田中委員長)

認知症ガイドブックを平成29年7月に作成。32年に改訂版を発行する予定。

本会議は年間2回の実施。今年度は5月、1月に実施。32年のガイドブック改訂版を発行するには、市役所の予算請求を31年秋に予算要求を出す。今回は予算にかかわる大枠のところは決定させたいのでご協力いただきたい。

認知症地域支援推進員が作成した認知症安心ガイドブックの改訂版のたたき台に関して、事務局のほうから御説明をいただく。

(事務局)

委員各位から御提出いただいた実施評価表及び小金井市認知症安心ガイドブックについての御意見、あと認知症の家族の会と認知症サポーター養成講座のフォローアップ講座の参加者にとったアンケートの内容を見て、月1回行われている認知症地域支援推進員との連絡会の中で検討して叩き台を作成した。

委員各位からは、形状や色、字の大きさの変更といった、レイアウトについて多数意見があがった。一方、市民向けにとったアンケートでは、文字の大きさや量もちょうどいい、形状も見開きの形状のものがよいとの意見が多かった。他に包括の周知や、市内の情報をより載せたほうがよい、といった意見もあり、これらを整理した。

- ・認知症サポーター養成講座を強調するため「認知症サポーター養成講座を受けましょう」という文言を2ページ目の上のほうに書いた。

- ・認知症の症状で、改善が期待できる場合もあるため、早期の治療を強調する文言を2ページ目の下に書いた。

- ・全部開くと、4～7ページにある用語がわからないという意見があり、例えば権利擁護センターや成年後見は慣れていないとイメージがつきづらいため説明を加えた。

- ・介護保険を利用したことがないと、通所介護とか訪問リハビリなどの言葉がわかり

にくいと考え、一番左に説明を加えた。

・ 8 ページ目「詳しくはこの冊子を見てください」の冊子の写真3つを外し、既存の地域包括支援センターのチラシの一部を付け、訪問可能、無料の文言を入れた。

・ 「市内関連機関情報」は、実際には認知症カフェをうたっていないなくても認知症の方が出入りしたり包括の職員が行っているカフェがあり、そういったところに「認知症の相談や不安を話せる場所」欄への掲載を打診した。すると、ここに載ると認知症の人しか行けないような印象があるが、「誰でも行ける場所」という表記ならよいとのことだったので、「認知症の方でも誰でも気軽に行ける場所」とし、今回は「お隣さんカフェ」と「また明日」を載せた。家族会は別にした。

(田中委員長)

順番が前後するが、前回のこの会議でリーフよりも冊子のほうがいいという意見も多少出たが、予算がかなり変わり、内容の検討にもかなり時間がかかる。できればリーフのほうがスケジュール的にも無難ではと思うが、その辺についていかがか。

(今井委員)

いつも小金井の予算だけで作成しているのか。例えば補助金と合わせる、など。

(濱松包括支援係長)

このガイドブックは介護保険特別会計であり、保険料や国の補助のようなものも入る。ガイドブックだけの予算ではないため限られた使い道の中から予算をつくる。

この場で冊子がいいとなれば、冊子をつくる予算を要求する流れになると思う。

(田中委員長)

ガイドブックを作成した当初、なるべく多くの人目に触れたい、ということで少しでも部数を増やせるリーフにし、最初は包括支援センターのところに連絡が行けば一番いい、という経緯があったと思う。

(今井委員)

その流れで来たのなら、部数をいっぱいつくったほうがいいのかと思う。配り方の工夫によりお金がかかるようだったら、それはまた別に考えるように、というのはある。

(田中委員長)

現在、配布の方法としては、包括支援センターやクリニック、歯科医院、薬局、商店街などに配ってもらうなど、お金がかかっていない。新聞の折り込みに入れるとなると予算がかかることになり、配布方法まで言及していくことになってくると思う。

(今井委員)

包括支援センターは入りにくい。駅からも離れているし、施設の奥とか、非常に敷居が高い。例えばこれを32年度でつくったら、月1回でも2回でも駅などで夕方帰宅するサラリーマンが寄れる状態にし、あなたのお父さんは大丈夫ですかみたいな看板でも出して話を受ける。うちの親はこんな感じなんだけどと言えば、お近くの包括に

電話一本入れておきましょう、など行きやすい体制をつくれると入りやすい。

(田中委員長)

現在、市民向けの認知症講演会とかでも配布しているのですよね。現段階では配布用のイベントのようなものがなく、何かのイベントに付随して配る程度にとどまっております。配布方法も今後の検討課題になると思う。それはこの後グループワークがあるので、その中でも意見を出してもらえればと思う。より良い配布方法の検討もこの委員会でやっていかなければいけない課題かと思う。

(今井委員)

先ほど2万人ぐらい高齢者がいるとの話だったが、何割ぐらいが認知症になるのか。

(竹田委員)

年齢にもよる。90歳を過ぎれば8割位はある程度認知症の領域に入ると思う。

(高橋氏小金井にし地域包括支援センター)

認知症サポーター養成講座の中で有病率15%と説明しており、小金井市では現時点で3,800人ぐらいの方が認知症ではと推計される。

(田中委員長)

認知症の患者さんプラス、MCIの患者さん、また家族の方にも知ってもらわなければいけないので、認知症の患者数以上の部数は必要になってくるのかなと思う。

(今井委員)

そうすると、早期発見が大事だということですね。

(田中委員長)

そうですね。認知症は治す薬がない。進行をどれだけ遅らせるかという薬なので、早く見つけて治療を始めないと余り意味がない。そのためには啓蒙に大きな意味が出てくる。そういった意味でも、やはり枚数は配りたいということになるのではないかと。

(竹田委員)

ガイドブックの形式の件ですが、事前に配られたアンケート結果を見ると、見開きが63%という結果が出ているので、これを見れば見開きがいいのかなと思う。

(田中委員長)

このアンケートの集計は、一般の市民に一番近い意見が上がっている。その結果、見開きが一番支持されている。できればこの会の総意としてリーフレットということで御同意いただければと思うのだがいかがでしょうか。

(「はい」と声あり)

(田中委員長)

では、リーフ型で進めるということで、ここで皆さんに確認いただきました。

次にガイドブックの内容について検討をしていきたいので、検討方法について事務局のほうから御説明をいただいでよろしいですか。

(濱松包括支援係長) 【検討方法】

- ・たたき台は、委員の皆様からの御意見や一般市民からのアンケートをもとに、認知症地域支援推進員連絡会の中で協議し、一部修正したもの。
  - ・2つのグループに分かれ、修正内容や、他の箇所についても話し合う。
  - ・進行役は、各グループに配置された認知症地域支援推進員。
  - ・たたき台に直接書き込むなどを行って検討していただくとよろしいかと思う。
- 終わりましたら、各グループから発表していただきたい。

(グループワーク)

【各グループより発表】

Aグループ：(黒木小金井みなみ地域包括支援センター)

- ・御本人用と御家族用に分ける。見開きのページ数を4、5、6、7、自分でできるチェックリストが9、市内の関連機関情報のところを10とページ番号を振る。御本人用のところを1、2、3、8、9、10ページ、家族用を1、4、5、6、7、8、10ページと分ける。裏表2枚になる。
- ・1ページ「知っていますか？認知症と老化によるもの忘れの違い」を外し、「自分でできる認知症の気づきチェックリスト」をここに持ってくる。
- ・2ページに追記した「認知症サポーター養成講座を受けましょう」は家族用へ持っていき、代わりに一番下の「治る場合もあります」「ご相談ください」を持ってくる。
- ・7ページの医療のところの端にある「まずは地域包括支援センターへご相談ください」は中期以降では適しておらず、軽度認知障害の上のところへ入れる。
- ・7ページ「入居：高齢者住宅・サービス付き」の入居情報は「高齢者者住宅」にまとめる。おむつサービスは4、5ページ「家族支援、見守り支援」に入れる。「ただしサービスは条件等があるので包括支援センターに御相談ください」と注釈をつける。
- ・「成年後見制度」「権利を侵害されている場合」などは4、5ページと重複するため、見守り支援から権利擁護は、一言「初期からのサービスを続けて利用しましょう」の文言でカバーする。
- ・中期と中期以降がわかりづらいので、「中期以降」にまとめ、1ページにまとめる。
- ・症状は個人差が大きいので、ざっくりのまとめ方がいい。
- ・社会参加・予防の「初期の生活を無理のない範囲で続けましょう！」は、中期以降は社会参加がなかなか難しくなるので、ここを少し狭くして「これまでの生活を続けましょう」など言葉をかえる。

- ・文字の大きさとか形態を変えてわかりやすくする工夫も考えたほうがいい。

Bグループ：（中川氏小金井きた地域包括支援センター）

ページ割はAグループと同様とする。

- ・1ページ目の「認知症とは？」は、説明の部分を囲い、こきんちゃんと分ける。
- ・認知症は高齢者だけになるイメージが強いため、「誰にでもかかる可能性のある脳の病気です」とは書いてあるが、「高齢者（65歳以上）の方以外でもかかる可能性のある脳の病気です」と、年齢層を取っ払う。
- ・「知っていますか？認知症と老化によるもの忘れの違い」の上下の図は違いが分かりにくく、もう少し具体的な表現を使うべき。例えば食べたものを忘れる、朝御飯に何を食べたかを忘れる、食べたことを忘れてしまう、などの説明を入れる。説明はこの3つに限らなくてもよい。特に「判断力の低下が見られない」「判断力が低下する」はわかりにくい。
- ・2ページ目の一番上「あれ？これって認知症??」の認知症の早期発見の目安は、家族などがチェックするのか疑問であり、また認知症サポーター養成講座は一般市民向けの認知症の普及啓発というイメージもあるため、ここは削除し、「心配なことがあれば、まず包括に相談しましょう」に変更する。
- ・一番下の部分の「認知症状は、いろいろな原因で出てくるため」はわかりにくいので、「適切な治療により治る場合もあります」という言葉に変える。
- ・3ページ「認知症は早期発見が大事！」だが、どんな病院に行けばいいかは「ふだんかかっている医師」の後に「（かかりつけ医）」をつけ、他の箇所でも「かかりつけ医」と説明しているものとリンクさせる。その後、「精神科、もの忘れ外来」などと科の説明があるが、いきなり「精神科」と書いてあると敷居が高いため、「精神科」を一番後ろにし、「認知症疾患医療センター」を先頭にするとよい。
- ・4、5、6、7のページ。中期、中期以降は包括につなげるイメージから少し離れること、また中期、中期以降を初期の段階の人がいきなり見ると、ショックが大きいという話もあり、軽度の認知障害、初期をもう少し幅広く6ページぐらい、1.5倍ぐらいの大きさにし、中期以降はコンパクトにまとめる。
- ・点在している「8ページに小金井市が発行している冊子を参照」の記載を冊子の名前に変更する。「やすらぎ支援」「ふれあい収集事業」などはわかりにくく、冊子を見てこの言葉を調べる人はなかなかいないので、説明をもう少し入れるとよい。
- ・裏面。包括支援センターに相談をつなげるのが大きな目標なので、もう少しキャッチーな感じがあるとよい。また電話番号と担当地区は大きく書く。
- ・2ページで削除した認知症サポーター養成講座を10ページ目を書く。またフォントが小さいので、字をもっと書いたほうが見やすい。

(田中委員長)

MC I、初期のあたりを大きくして、中期、中期以降をまとめるというのは、どちらのグループからも出ている意見であり、その辺も32年版に反映できればと思う。

この意見をもとに、認知症地域支援推進委員会の連絡会等で整理し、またたたき台を皆さんの前にお示しすることになるので、そのときはまた御確認をいただきたい。

(3) 平成31年度の委員会について

(濱松包括支援係長)

当委員会は、来年度以降も年2回実施予定。委員の皆様の任期が2年間で、再来月の3月までとなっている。4月以降については、また改めて各関係機関に委員の推薦をお願いする予定。委員の交代等がある場合は、引き継ぎ等の御協力をお願いしたい。

次回開催は5月の下旬ごろを予定しているが、委員の改選があるためまた改めて日時及び場所については御連絡させていただきたい。